

■ 歴史講座 13:30～15:00

講座番号① 源氏物語講座
女三宮の出家生活—源氏の庇護と持仏開眼供養のはなやかさ—
日時:5月20日(土) 13:30～15:00
講師:伊井 春樹 (当館名誉館長)

講座番号② 新常設展「密●空と海」関連講座
弘法大師空海の誕生—奈良時代後期の四国—
日時:7月2日(日) 13:30～15:00
講師:大本 敬久 (当館学芸員)

講座番号③ 源氏物語講座
柏木の遺愛の笛—夕霧から源氏へ伝えられる運命—
日時:7月22日(土) 13:30～15:00
講師:伊井 春樹 (当館名誉館長)

講座番号④ 江戸時代のけんか、雨ごい—三間の文書から読み解く—
日時:7月30日(日) 13:30～15:00
講師:柚山 俊夫氏 (伊予史談会副会長)

講座番号⑤ 源氏物語講座
冷泉院での宴遊—源氏の参加による豪華さ—
日時:9月23日(土) 13:30～15:00
講師:伊井 春樹 (当館名誉館長)

■ 古文書講座 13:30～15:00

講座番号① 新谷藩のお触書を読む①—岩谷口村日野家文書より—
日時:5月28日(日) 13:30～15:00
講師:安永 純子 (当館学芸員)

講座番号② 新谷藩のお触書を読む②—岩谷口村日野家文書より—
日時:6月25日(日) 13:30～15:00
講師:安永 純子 (当館学芸員)

■ 民俗講座 13:30～15:00

講座番号① 染めと型紙 ～語られる伝統・残された道具～
日時:6月11日(日) 13:30～15:00
講師:徳永 早映氏 (伊予小紋いちよう) 松井 寿 (当館学芸員)

講座番号② 四国霊場とお遍路さん
日時:9月30日(土) 13:30～15:00
講師:今村 賢司 (当館学芸員)

受講時のお願い
●感染症の拡大状況により、日程・内容が変更・中止となる場合があります。
●講座の写真撮影、録音はご遠慮ください。

■ 考古講座 13:30～15:00

講座番号① 西条市の発掘調査成果①—国史跡永納山城跡の調査と整備—
日時:6月17日(土) 13:30～15:00
講師:渡邊 芳貴氏 (西条市教育委員会)

講座番号② 西条市の発掘調査成果②—北竹ノ下・II遺跡・桜井遺跡の調査結果—
日時:9月2日(土) 13:30～15:00
講師:池尻 伸吾氏 (公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター)

■ 体験講座

講座番号① 「ブラ防さんぽ—吉田陣屋町を歩いて防災学習—」
募集30名
日時:5月13日(土) 10:00～12:00(現地集合)
講師:ボランティアガイド
対象:小学生～一般 ※小学生は保護者同伴
参加費:600円(予定)
【締切】:4月29日(土)

講座番号② 「草で作る小さなカバン、サコッシュ作り」
募集15名
日時:6月10日(土) 13:30～16:30
講師:後藤 琢郎氏 (革工房ワンループ)
対象:小学生～一般 ※小学生は保護者同伴
参加費:3,000円
【締切】:5月27日(土)

講座番号③ 「笑福シーサー☆オリジナル壁掛けを作ろう」
募集20名
日時:7月29日(土) 13:30～16:30
講師:二宮 真理子氏 (海風窯)
対象:小学生～一般 ※小学生は保護者同伴
参加費:小学生1,500円 大人2,000円
【締切】:7月15日(土)

講座番号④ 「北条風早の史跡めぐり(松山市)」
募集30名
日時:9月24日(日) 8:00～17:00
対象:愛媛県内の小学生～一般 ※小学生は保護者同伴
参加費:5,000円(予定)
【締切】:9月10日(日)

申込方法
希望する講座名・講座番号とご住所・お名前・年齢・電話番号など必要事項を記入し、各講座の応募締切日までに当館HPの講座申込フォーム・ハガキでお申し込みください。(当日必着) ※締切日の記載がない講座は先着順で、定員(各80名)まで受け付けます。
お問い合わせ
企画普及グループ・歴史文化講座係
TEL (0894) 62-6222 FAX (0894) 62-6161

展示スケジュール 2023.4-2024.3

Table with exhibition dates and titles from 2023 to 2024. Includes special exhibitions like 'ふしぎ駄菓子屋 銭天堂へようこそ' and '甦る名城 香川元太郎城郭原画展'.

ご利用案内

Table with museum hours (9:00-17:30), closed days (Mondays), and admission fees for general, group, and children.

Museum Calendar 2023.4-6 showing event dates and closed days for April, May, and June.

Museum logo and contact information for Ehime Prefecture Museum of History and Culture.

歴博だより Museum of EHIME History and Culture News



さあ、どんなものをおのぞみでござんしょう。

いらっしやいませ、幸運のお客さま。

令和5年度 特別展「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂へようこそ」

令和5年4月15日(土)～6月18日(日) 9時～17時30分(入場は17時まで)

「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂」(楷成社)は、2013年5月から刊行され、シリーズ累計420万部を突破。子どもから大人までを虜にする児童書「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂」の世界を、原画やフォトスポット、立体造形など多彩な資料を交えて紹介します。

Table with special exhibition ticket prices for adults, seniors, and children.

* () は 20名以上の団体料金 *特別展観覧券で常設展もご覧いただけます

歴史

きんようわかしゅうのういんほうしわか
金葉和歌集 (能因法師の和歌)

年代：江戸時代刊
法量：縦28.0cm×横21.5cm
所蔵：当館蔵



『金葉和歌集』は天治元(1124)年頃の成立で、白河上皇の院宣により源俊賴が編纂を手がけ、『古今和歌集』から数えて5番目の勅撰和歌集として完成しました。巻十には伊予国「一宮」(今治市大三島町の大山祇神社)にて能因が詠んだ和歌が収録されています。能因は「嵐吹く 三室の山の もみぢ葉は 龍田の川の 錦なりけり」で小倉百人一首に選ばれた歌人で、俗名は橋永愷。清少納言の夫と親族だった関係で『枕草子』の写本(能因本)を所持していたことでも知られています。能因は長和2(1013)年に出家した後、諸国を旅する文人として、西行や松尾芭蕉らの先駆的存在でした。『金葉和歌集』には「天河 苗代水にせききだせ あまくだります神ならば神」とあります。同歌は『能因法師集』にも見られ、長久2(1041)年夏に伊予国が干ばつで苦しんでいたことから、能因が国司の藤原資業に依頼されて雨乞いの歌を奉納したところ、三日三晩、雨が降り続いたと書かれています。『金葉和歌集』では能因を伴ったのは資業の次の国司である藤原範国と記されますが、年代的には資業が正しいようです。能因と資業は青年期の文章生以来の友人であり、資業は経済的にも頼りになる存在でした。残された文献の少ない平安時代後期の伊予国を考える上で、本資料は貴重といえるでしょう。

(専門学芸員 大本 敬久)

歴史

ごじゅんざいよろずひかえ
御順在萬控 (岩谷口村日野家文書)

年代：文久2(1862)年
法量：縦17.7cm×横12.5cm
所蔵：個人蔵・当館保管

今回紹介するのは、文久2(1862)年、新谷藩郡奉行の領内視察で案内役をつとめた岩谷口村(現砥部町)の庄屋・日野資光の記録です。この視察で郡奉行は、当時の新谷藩の重要な産業である砥石を産出する山や田畑に水を得るための大南堰を中心に廻っています。資光は、先例や儀礼を重んじながら、藩役人や村役人と連携して、郡奉行の案内や宿泊、食事の準備などの対応にあたりました。そして、郡奉行が村民に対して説諭と奇特者・長寿者の褒賞を行った際には、庭に揚げ板を敷いて村民の座る場所を用意するなど配慮をしています。

また、郡奉行は訪問する前に村々に負担をかけないように御膳は一菜で良いと通知していましたが、資光たちは質素ながらも地元魚や野菜を用いた料理を中心にもてなしています。食事の内容は、鯛を焼いたものや人参・ごぼう・椎茸などを煮込んだ味噌汁、厚焼き玉子やかまぼこなどで、現代の私たちの食事とほとんど変わりありませんでした。



本資料は、資光が後々の視察対応マニュアルにするために記録したのですが、献立に記された料理は現在も私たちの食卓にのぼっています。今後、その詳細な献立は愛媛の食文化の研究にも活用できるものと思われます。

(主任学芸員 安永 純子)

※『研究紀要』第28号(令和5年3月発行)で資料紹介をします。

テーマ展のご案内

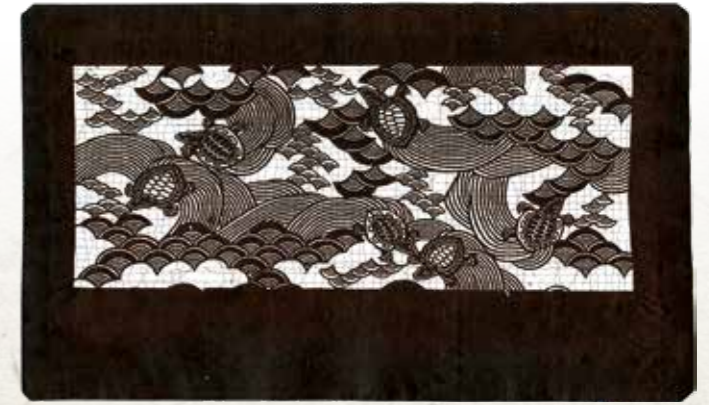
常設展観覧料
(テーマ展含む)

大人(高校生以上): 540円(440円) / 65歳以上: 280円(230円)
中学生以下: 無料 ※()は20名以上の団体料金。

愛媛の染型紙

染型紙は、着物等の生地を染めるのに使う型紙で、柿渋で張り合わされた紙に文様が彫り抜かれています。この染型紙を布の上に置き、文様の部分に糊をのせることを繰り返して染め上げると、文様部分が白く残ります。染型紙は、現在の三重県鈴鹿市で製作されてきたことから伊勢型紙とも呼ばれます。江戸時代から型紙販売商人により全国へ流通し、愛媛県内でも伊勢型紙が用いられてきました。

本展示では、愛媛県内に残された染型紙を中心に、文様の世界を紹介します。先人が生活の中に取り入れた文様の美しさやバリエーションの豊かさをお楽しみください。



染型紙 青海波に亀(当館蔵)

令和5年

4月15日(土) ~ 9月3日(日)

●場所: 文書展示室 ●観覧料: 常設展観覧料

関連講座

「染めと型紙~語られる伝統・残された道具~」
講師: 徳永早映氏(伊予小紋いちよう)・松井寿(当館学芸員)
令和5年6月11日(日) 13:30~15:00



緋色段塗二枚胴具足
(松山藩主松平定功所用)



紺糸威桶側二枚胴具足
(大洲藩主加藤泰興所用)

よろいかぶと

端午の節句に合わせ、江戸時代の大名家に伝わった「よろいかぶと」を中心に、武具に関連する資料を展示します。「よろいかぶと」は、戦いのとき、矢や刀などの攻撃から自らの体を守るための武具です。端午の節句に「よろいかぶと」などを飾ることは、わざわざ身を守り、子どもの健やかな成長を祈る習わしとして江戸時代から広まりました。この機会に、貴重な「よろいかぶと」の数々をご覧ください。

令和5年

4月15日(土) ~ 6月18日(日)

●場所: 考古展示室 ●観覧料: 常設展観覧料

れきはくのあしあと

テーマ展「おひなさま」の関連イベント「おひなさまにへんしん」を3年ぶりに開催しました。今年は事前予約制をとり入れ、1日10組限定で実施。申込開始から2週間ほどで全日程の予約が満員になりました。「おひなさまにへんしん」ではおひなさまが袴(はかま)に袷(うちき)という着物を着用する平安時代の貴族女性の略装を体験します。裾の長い袴をはき、向かい蝶が散らされた紋様の袷を羽織ると普段とは違う姿に変身。かわいらしい姿にご本人も撮影をされるご家族の方も笑顔になられています。来年も実施予定です。着物のサイズにより身長制限がありますので、お子さまが対象内のうちにぜひご参加ください。



イベントのチラシの写真的な女の子、数年後再び参加されました!